

SUSAP リトアニアプログラム



2021/2/15~2/27

参加者プロフィール



経済学部経済法学科 2年 脇山愛理
外国の文化を知ることが好きで、

以前参加した海外のオンライン研修が楽しかったので、次はヨーロッパの国を学んでみたいと思い、参加した。



理工学部機能物質化学科 3年 塚本ルーク達美
大学入学後、留学することを考えていたのですが新型コロナの

流行により行けなくなってしまったのですが、オンラインで国際交流が出来ると知ったので参加しました。



理工学部理工学科 1年 川崎紫乃

自分と異なる文化圏の人と交流をしてみたかったから。自分と異なる文化を持つ人と交流することでひろい視野を持つことが出来ると考えたから。



経済学部経済学科 1年 三戸瑞月

ヨーロッパの国々の文化や歴史に興味があったのと、自分の英語力を伸ばしたいことから参加を決意しました。授業を受けていく中で、いつかリトアニアを訪れ、写真でしか見られな

かったものを実際に見たいと思いました。



理工学部機能物質化学科 3年 尊田早紀

英語力向上とリトアニアの文化を学ぶという目的でこのリトアニアのオンラインプログラムに参加しました。また、リトアニアの学生との交流を通じて日本人との価値観の類似点・相違点について知りたいと思いました。

プログラム概要

[期間]2021年2月15日～2月27日(12日間)

[留学先] ヴィタウタス・マグナス大学

[内容] リトアニアの文化、政治経済、歴史、民俗、日本とリトアニアの関係について学ぶ・講義や現地の学生との協働学習を通じて学習し、異文化交流の体験を行う。

リトアニアの歴史

「リトアニア」の国名が歴史的な文書に最初に登場するのは1009年になります。その後、西方の周辺諸国から襲撃を受けつつも、東方へと勢力を伸ばし、14世紀までにヨーロッパ最大の国家となりました。しかし、その後は独立を守ろうとするも周辺諸国の勢力に支配されていきます。1918年2月16日、ドイツ革命の余波が及ぶ中でリトアニアは独立を宣言します。これはドイツ帝国の構想の一環だったのですが、第一次世界大戦でドイツ帝国が敗北して崩壊すると、リトアニア第一共和国となりました。しかしまたドイツ軍やソ連軍などに占領され、1990年3月11日に再び独立回復を宣言した前後の独立運動では多くの死傷者が出ました。独立した後は、北大西洋条約機構(NATO)や欧州連合(EU)に加盟し、経済も成長しつつあります。とりわけバイオテクノロジーやレーザー産業が盛んで、機械電子工学や情報技術産業も今後が期待されています。

リトアニアの文化

人口構成をみると、人口の約83%がリトアニア人で、他にポーランド人やロシア人などがいます。言語はリトアニア語がほとんどで、母国語以外の言語も話せる人が多いですが、これはリトアニアが小国で周りの国々とうまく付き合っていく必要があるからです。ソ連時代を経験した上の世代の多くはロシア語、若い世代は英語が話せる人が多いです。主に信仰されているのはカトリックです。伝統的な食べ物には「シャコティス」というバームクーヘンのような味のお菓子があります。国民に人気のスポーツはバスケットボールです。また、大きなイベントとしては、春の訪れを祝う「ウジュガヴェネス」が挙げられます。リトアニアは冬の寒さが厳しく、春が近づくと国中がお祝いムードに包まれます。クリスマスには家族全員で過ごし、先祖の霊をととても大事にします。毎年独立記念日には国旗を振って街を練り歩くなど、リトアニアの人々は国の独立をととても誇りに思っています。



リトアニアの地図

授業内容

授業はオンラインであり、15時から18時までの間に受けるものがほとんどでしたが早いものは時から14時に始まり、遅いものは20時過ぎに終わるものもありました。リトアニアとの時差は7時間なので日本では昼過ぎから夕方に授業を受けましたがリトアニアでは朝早くから昼までの授業でした。

講義の時間は一コマ1時間半でした。オンラインでの講義はZOOMやMicrosoft TeamsなどのWeb会議アプリで行いました。リトアニアの先生が授業の資料やスライドを画面共有しながら講義を進め質問があればこちらのマイクをオンにして行うなど佐賀大学のオンライン授業とよく似ていました。もちろんすべての講義が英語で行われ画面共有される資料も英語なので、集中しないと置いていかれてしまいますが自分の英語力が鍛えられているという実感はありました。またパソコンで授業を受けているので分からない単語があればインターネットで調べることも出来たので少し安心して授業を受けることが出来ました。

授業の内容としては、初日に歓迎の言葉を受けた後、今回プログラムを提供して頂いた Vytautas Magnus University (VDU) のキャンパスを写真や動画を通して紹介して頂きました。またリトアニアという国についての講義が一コマありました。

2日目にはVDUにあるアジア研究センターの紹介とリトアニアとバルト海沿岸の歴史と政治についての講義がありました。

その後1週目には、日本とリトアニアの関係、幸福度と経済的な豊かさの関係、リトアニア語、リトアニア人と日本人の互いの印象についての授業がありました。また橋クラブ(VDUの日本語を学ぶグループ)との交流や杉原ハウス(杉原千畝についての博物館)の紹介もありました。2週目は、リトアニアの学生と同じ授業を受けたり橋クラブの学生と一緒に日本語について学びました。

橋クラブ

プログラム外ですがリトアニアの学生が日本語を学ぶ橋クラブのボランティアがありプログラム終了後もリトアニアの学生と交流することもできます。実際にプログラム終了後もプログラムと同じようにマイクロソフト teams で授業のボランティアの案内やリトアニアの学生との交流が行われています。

リトアニアとつながった二週間

経済学部経済法学科 2年 脇山愛理

私がこのプログラムに参加したいと思ったのは、数か月前に参加したインドネシアのオンラインプログラムがとても楽しく、今度はヨーロッパの国について勉強するのも楽しそうだったからだ。それと、実際に英語を使う良い機会にもなると思った。

プログラムの初日は、とても緊張した。Teams というアプリで遠隔授業を受けるのは初めてだったのでうまくいくか少し不安だったし、リトアニアの人は白人なので「外国人だ」と思ってしまって、英語をできるだけたくさん話そうと思っていたのに全く話せず、先生の問いかけにも答えることができなかった。初日が終わった後、正直「これではマズい!」と思った。このままではせっかくのチャンスを無駄にしてしまうと思った。そこから気持ちを切り替え、1つの授業につき1回は質問をしようと決めて毎日の授業に取り組んだ。たまに全く発言できない時もあったが、何とか頑張って英語で質問するように努めた。たくさん間違いはあったが、先生たちに通じて、詳しく話をしてもらえて嬉しかった。また、最初は「リトアニア」の発音が日本語読みとは全く違うことに驚いた。「ト」の部分は本当は thu と弱く発音され、「リスエィニア」のような感じだった。日本語の「ス」の方が近いのに何で「ト」になったんだろうと思いながら初めはなかなかうまく発音できなかったが、何回も言うると少しは本当の発音に

近づけた。

私は事前研修で、リトアニアが周りのロシアなどに占領され、そして独立していく時代について書かれた本を読み、リトアニアの人たちはつらい大変な経験をしてきた人たちなんだという気持ちでプログラムに臨んだ。歴史についての授業は、残念ながら私の英語力不足で詳しく理解できなかったが、色んな授業の中で「ソ連時代」という言葉が出てきたし、先生方にも子供の頃はロシアで育ったという方が何人かいらっしゃって、本で読んだことは本当だったんだなと思った。プログラム中には一つ目の独立記念日もあって、その前後も含めた数日間は、よく先生たちが独立記念日について触れ、みんなで祝うんだよと言ってとても嬉しそうだった。リトアニア人にとっては自分たちの国で自由にいられることが当たり前ではないというか、リトアニアの人たちは国や民族に対する意識が、占領された経験がほぼない日本人とは違うなと感じた。

プログラムの中のある授業で、終わるのが予定より大幅に遅れてしまったことがあった。その時に担当の先生は、「君たちのパーソナルタイムを奪ってしまっでごめんね」とおっしゃった。私は、休憩時間のことを「パーソナルタイム」と言うんだなと思った。その後、相互コミュニケーションの授業があり、そこで、リトアニア人は仕事と自由な時間をきちんと分け、自分の自由時間を大切にするのだということを知った。確かに、授業の間の休憩時間も30分としっかりある。先ほどの先生の言葉は、この文化か

ら来ているんだなと思った。北欧の国でも仕事は早めに終わらせ、自分の時間や家族との時間を大切にするイメージがあるので、そのあたりの地域では共通のことなのかもしれないと思った。日本で過労が問題になるのも、仕事の時間と自分の時間の区別が曖昧だということとは逆の文化が原因なのだということがわかった。

他にも、日本文化についての授業やリトアニア関係についての授業を受けて、海外から見た時に日本文化のどのような所が特徴的であるかや、日本と近くの国との戦争が、関係がなさそうな遠くの国にまで大きく影響していたことなどを知り、日本についても違う視点から知ることができた。また、リトアニアの学生との交流では、オンラインということもありなかなかコミュニケーションをとることが難しかったが、話げできたこと自体は嬉しかったし、一緒にリトアニアのお祭りのお面を作れたことも楽しかった。外国の人と話するときにはわかりやすい日本語を使うことや、ちゃんと意識して反応を返すことが大切だということもわかった。

コロナ下で現地の雰囲気を感じることができなかったが、このプログラムに参加したことでリトアニアの色々なことを学び、リトアニアは私にとってヨーロッパの国の1つではなく、「特別な国」になった。そして、自分自身の成長にもつながった。いつか実際にカウナスの美しい街を見てみたいと思う。

オンラインでの初めての留学

理工学部理工学科 1年 川寄紫乃

私は、2月15日から2月27日の約2週間、リトアニアのヴィタウタス・マグナス大学のオンライン留学に参加しました。もともと、大学生になったら絶対に留学しようと思っていました。異文化をもつ人々と交流すれば、視野が広がり、自分を成長させることができると考えたからです。今回はオンラインという異例の展開で、実際に現地に行くことで得られるはずのものは得られないだろうと思いました。しかし、だらだらと家で過ごしていた生活を少しでも変えたかったし、リトアニアという馴染みの無い国について勉強できる機会は滅多に無いと思い、オンライン留学に参加しました。

まず、研修の中で1番印象に残ったのは、リトアニアと日本の歴史の違いです。リトアニアは、外国に占領されていた期間がとても長く、今のような独立を果たしたのも1990年と最近のことです。しかし、実は1918年にリトアニアは最初の独立を果たしています。その独立記念日が2月16日と、ちょうど研修期間中でした。その当日だけでなく、その前後の日にもリトアニアの先生たちは国の独立について言及していて、当日は例年国を挙げてイベントが行われます。この事からは、リトアニアの人々がどれほど国の独立を誇りに思っているかが感じられます。一方で、日本は外国に完全に侵略されたという歴史はありません。リトアニアの先生は、「鎖国ができるなんて信じられない」と言われていまし

た。とても長い間外国に支配されていた国からみれば、日本のような歴史は信じられないのだと思います。同じように、私もリトアニアの歴史を知って驚きました。そして、リトアニア人の視点から見た日本の歴史を考えることができ、当たり前のように思っていた自分の国の歴史を違った見方で考えるようになりました。

また、研修の中でヴィタウタス・マグナス大学の日本語教室の学生と交流する機会もありました。彼らはとても流暢な英語を話していましたが、日本語もとても上手でした。私と話したある学生は、日本食の寿司やラーメンが大好きで、Youtubeを見ながら実際に自分で作ったりするそうです。そして、いつかは日本に来て本物の味を知りたいと言っていました。親日な外国の人と実際に話しをしたのは初めてで、とても楽しかったです。と同時に、もっと日本について伝えたいのに伝えられない自分の英語能力の低さを実感しました。もっと英語を勉強しなければという意欲を持つことができたのも、この留学プログラムのおかげです。

また機会があれば、留学プログラムに参加したいと思えるほど、とても有意義な時間を過ごすことができました。今回、事前学習の時からノートを作り、授業内容や感想などをずっと書いてきて、それを見返すと自分の成長が感じられます。次の留学ではノートの書き方も進化させて臨もうと思っています。実際に外国に行って、その雰囲気を肌で感じられる日がとても待ち遠しいです。

「オンラインリトアニア研修での学び」 理工学部機能物質化学科 3年 尊田早紀

私にとってこの研修は2回目の SUSAP のプログラムでした。しかし、前回のプログラムとの大きな違いは、オンラインであることです。オンラインで本当に成果はあるのかと疑問に思いながらも、コロナウイルスの影響で海外へ行くことができない今だからできることをやろうと思いこのプログラムへ参加を決意しました。今回のプログラム参加目的は、英語力の向上とリトアニアの文化や歴史について学ぶことでした。英語力に関しては、2週間という短い期間で自分自身のリーディング、リスニング、スピーキングスキルがどのくらい向上するのか試してみたいと思い参加しました。また、今までアジアについてしか学んだことがなかったので、西洋の文化にも触れてみたいと思って参加しました。

研修内容はリトアニアの文化や言語、歴史、経済、日本とリトアニアの関係について英語で毎日1時間半程度の講義形式のものとリトアニアの学生の日本語のクラスに入り現地の学生と英語や日本語であるテーマに沿って意見を出し合うというものでした。

私がリトアニアの学生とやり取りをしていて感じたことは、リトアニアの学生の英語力と日本語力が高い人が多いことです。今回交流した学生は先生とのやり取り、学生同士のコミュニケーションが英語で行われており、リトアニア語よりも英語が第一言語のように使っているのではないかと感じました。リトアニアで

は現在、小学校で英語を習い、中学校からはフランス語やスペイン語などの第2外国語として習う教育カリキュラムです。このことはポーランドとの統合やソ連による統治などの歴史的背景と周囲を多くの国々に囲まれているという地理的背景からだと考えます。また、研修期間中がリトアニアの国家再建記念日にあたる2月16日を含んでいたこともあり、多くの先生が講義の最初にこの記念日について触れられていたことからリトアニアの人々にとって大切な日であることをとても感じました。リトアニアの学生からもこの記念日の過ごし方や思いを聞くことができ良かったです。日本にも建国記念日は存在しているがみんなでお祝いするような文化はなく、祝日の一つという認識でしかないため、リトアニアの人は自分の国を愛する、大切にす文化であるように感じました。ここが日本人とリトアニア人の考え方の違いだと思います。リトアニアの人は自分の国についてよく理解していて、歴史や文化について詳しくできるのに対して、日本人の多くは日本の文化や歴史について説明できていないことに繋がっていると思います。その結果、母国に対する理解や母国を大切にすること、そして日本人であることの誇りや自信が他の国と比べて低いように考えられます。今回の講義テーマにもあった「幸福度」に対する考え方にもつながっていると感じました。日本は年々下がっているのに対して、特に北欧諸国は幸福度が高い傾向にあり、リトアニアも少しずつ上がっています。このことより、自国に対する誇りを持っている方が、国民性

として自己肯定感が強く、結果的に幸せを感じやすいのではないかと考えました。

また、日本語のクラスでは、こんなにも日本の文化を知りたいと思っている人が多いことに驚きました。そして、日本のポップカルチャーの講義では「かわいい」という語源や汎用性について分析されていて、何気なく普段使用している単語に関しても海外の方の視点を通すと解釈の差が生じることを改めて感じました。リトアニア人とのコミュニケーションを通じて、日本語を正しく使うこと、教えることの難しさを感じました。

私がこの研修を通して見えてきた課題は、2つです。1つ目は、日本人として日本語を正しく使い、日本の文化を正しく外国人に伝えられるようにすることです。普段は熟語に直して言葉を端的に伝えようと心掛けていることもあって、今回の日本語のクラスでは、リトアニアの学生に対して熟語が伝わらないことが多くて悩みました。この経験から、熟語や単語の意味を正しく使う、熟語を簡単に言い換えられるようになるすなわち、語彙力を増やし、類意義で表現できるようになる必要があると感じました。2つ目は、コミュニケーションは積極的に自分から話すことが大切だと改めて感じました。オンラインということもあって消極的になりがちだったので、文法が間違っても気にしないという気持ちでコミュニケーションが取れるように英語でのコミュニケーションの場を増やすだけでなく、日本語でも多くの人に自分の意見を伝えることを意識的に行動していきたいと思います。最後に、時差の都合上朝早くから私た

ちのためにオンライン講義を開講してくれたヴィタウタスマグナス大学の先生や橋クラブの学生に感謝です。コロナウイルスが落ち着いたらぜひ行ってみたいと思っています。



杉原ハウスと呼ばれる建物

杉原千畝がリトアニアのカウナス（当時の首都）で領事館として使っていた場所現在は記念館として中に入る事が出来る



リトアニアにあるカウナス城

13世紀に建造され現在は観光することが出来る。プログラム最終日にバーチャルツアーで中を見ることが出来ました。

プログラムを終えて

理工学部3年 塚本ルーク達美

今回のプログラムを受けて思ったことはやっぱり参加して良かったなということと留学をしたいということを改めて感じました。今回のプログラムは例年と違い全てオンラインで行われ家から一歩も出ることなく遠いリトアニアの方と交流し話を聞くことが出来ました。メリットはたくさんあり非常に安価（1万円ちょっと）で参加することが出来たことです。このプログラムに参加する前はヨーロッパの北の方にある小さな国というふんわりしたイメージしかなかった国でもきちんと相手のことを知ることでどんな国で日本とどのような関係を持っているのか、どのような人が住むのかを知ることが少しだけでも知ることが出来ました。一方オンラインで参加することのデメリットはその場に実際に居ないので実際に体験できることが減ってしまうことだとも感じました。例えば今回のプログラム中、リトアニアはかなり寒かったらしく雪が沢山降っていたそうです。ほとんど雪が降らない九州にずっと住んでいる身としては雪が降り積もる生活はどんなものなのか気になっているのでそれを体感できなかったのは惜しかったと感じます。また現地の食べ物を食べたり人々の生活を感じることが出来なかったのは少し残念です。ただこのデメリットは将来実際にその国に行くことを考えたらそこまで気にならないとも思います。私はこのプログラムを通してリトアニアに親近感を持ち現在のコロナ禍が終わったら実際にリトアニアに行き自分の足と

目で見て回りたいと感じました。

講義を受けて感じたことは選択肢の多さと英語で受ける授業の難しさです。

佐賀大学でも教養科目などで専門以外の科目以外でも講義を受けることは可能ですが VDU では自分の専門以外でもある程度専門的な内容を受けることが出来るという話だったと思います。今回私が受けたものでは水辺の構造物に関する講義や幸せと経済的な豊かさの関係などの講義は非常に興味深いものでした。また水辺の構造物は都市工学の内容だと思のですが国の違いがその内容にも影響するのだと強く感じさせられました。具体的にはリトアニアでは水が氷るため凍結による浸食やパイプの破損に対処する必要があるということでした。

英語で授業を受けることの難しさは一つはノートを取ることが難しいこともう一つが専門用語等分からない単語が出てきたときに内容が分からないことでした。

リトアニアの学生との交流はオンラインという形式上仕方がないことでもありますがあまりできなかったことが心残りです。VDU には橋クラブという日本語をまなぶクラブがありコースの一環で交流する機会があったのですがオンラインのためどうしても時間に制限があったりして思うように話せなかったり相手のことをあまり知ることが出来ませんでした。ただ短い時間でしたがリトアニアの学生との交流を通して私との考え方の違いや逆に同じような考えがあるということを知ることが出来たのはいい経験でした。

「オンライン留学を終えて」

経済学部経済学科 1年 三戸瑞月

私はヨーロッパの国々の歴史や文化にとっても興味があったため、このプログラムに参加した。このプログラムに参加して、日本では学べないことや、オンライン留学を通して感じたことについて、述べていきたいと思う。

まず1つ目は、自分の英語力についてだ。プログラムの初日、自己紹介をする機会があったのだが、とっさのことで英単語がどうしても思い出せなくて言葉に詰まってしまった。その後他の授業を受けている際にも、授業の感想を求められる機会があったのだが、そこでも言葉が出てこなくて感想を言うことができなかった。これらのことを通して、自分が日本語を英語に変えるのがとても苦手だということが分かった。また、このプログラムはある授業を除いて、すべてが英語で行われていて、私はすべてが英語で進められていく授業は今まで受けたことがなくとても大変だった。さらに進むスピードも佐賀大学の授業より速く、辞書などで調べていると置いて行かれてしまい、授業の内容が半分ぐらいしか理解できていない状態になってしまっていた。これらのことから、英語の勉強、特に、単語力と英訳をする力を鍛えていかなければならないと感じたので、しっかり勉強をしていきたいと思う。

次に2つ目は、日本語を教えることの難しさについてだ。このプログラムの「日本の言語・文化」の授業では、リトアニアの学生と一緒に授業を受けていた

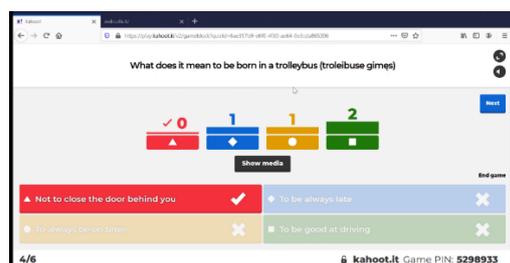
のだが、この授業は日本語で進められていた。英語圏やヨーロッパの言語を使う人からすると、日本語はとても難しい言語になるのにも関わらず、リトアニアの学生たちの日本語がとても上手だったことに驚いた。しかし、リトアニアの学生が知らない日本語が出てきた場合に、私たち日本人の学生が英語で教えていたのだが、なかなかうまく教えることができず、日本語を教えるのに時間がかかってグループディスカッションの時間を使い果たしてしまうことがあった。私たちは普段日本語を文法などは考えずに使っているが、いざ教えるとなると、どう説明すればいいのかわからず、日本語を教えることの難しさを肌で感じた。だから、日ごろからもっと意識して日本語を使っていきたいのと、もしもまた外国の方と日本語で話す機会があったら、熟語や複雑な表現を使わずに、分かりやすい日本語で話すことを意識していきたいと思う。

続いて、外国の文化や歴史について現地の人から学ぶことの大切さについて述べていきたいと思う。このプログラムが始まって2日目の、2月16日はリトアニアの独立記念日だった。初日の授業から、リトアニアの大学の教授たちが「明日は特別な日」と言っていたり、2日目の授業ではもちろん、3日目の授業の時も独立記念日のことについて触れていたことから、リトアニアの人々がとても独立記念日を大切にしていることが分かった。事前研修などで調べていく中で、リトアニアの人々が独立記念日を大切にしていることは知っていたが、実際

に話を聞いてみないと実感できないことだと思った。また、リトアニアの伝統的な祭りについての授業があったのだが、その授業は事前にインターネットで調べても出てこなかった祭りや、クリスマスの風習について学ぶことができた。これらのことは日本では知ることができなかつたし、実感できなかつたことなので、外国の歴史や文化を知るためには、その国の人たちの話を聞くことが1番いいことだと思う。

今回の留学はオンラインで、約2週間という短い間ではあったが、この留学を通して、とても充実した体験をすることができ、自分の英語力の課題やその他にもたくさんのことを発見することができた。本当にこのプログラムに参加してよかったと思う。

最後に、オンライン留学という初めての試みを実施してくださった、佐賀大学とVDUの関係者の方々、留学中に手助けをしてくれた他の参加者の方々、本当にありがとうございました。



授業は主に Teams で行われた。

上の画像は Kahoot という授業でつかったクイズができるサイト

編集者から

このプログラムに参加したことは自分にとってとてもいい経験でした。私は、留学を考えていたところに新型コロナの流行によって行けなくなってしまいどうしようか困っていたところ、オンラインで国際交流をすることが出来たことは幸運なことでした。自分とはまるで違う文化や考えを持つ人たちと話すことは私にとって良い刺激になりました。また今回のプログラムでリトアニアについて学んだことを自分で確認するためにも将来リトアニアに行きたいと思います（塚本）

It was a very good opportunity for me to know about Lithuanian culture and the relationship with Japan. I really enjoyed the lessons and it was fun speaking with the students as well. I really hope to go to Lithuania one day and see the things I heard during this program with my own eyes.(Luke)

私にとって初めての海外留学でした。オンラインという形にも関わらず、多くの事を学び考えさせられた研修期間でした。実際に外国の人の話を聞いて、外国の人の立場になって日本について考えることができました。そして、改めて自分は「日本人」なんだなと実感しました。制約の多い時分の中で、このような場を作ってくださった日本とリトアニアの先生方に、深く感謝しています。（川崙）



リトアニアの国旗